

2017.6.6

会員の皆様、こんにちは。

前回のメルマガでもお届けしましたが、日本政府は2030年までに6000万人にまで増加させることを目標にしています。

観光産業が盛んな地と言えば、大都市や歴史的建築物・文化財がある地がすぐに浮かびます。しかし、近年、意外な地を訪れる外国人観光客が増えています。今回は「アニメで地域を活性化」がテーマです。日本のアニメを親しむ外国人が、観光客としてアニメゆかりの地を訪れ、地域が活性化するのです。今後、観光産業の一層の発展に日本アニメが一役買ってくれそうです。ご一読ください。

石田まさひろ政策研究会

アニメで地域を活性化

■日本アニメ 100 年

国内外で日本アニメが人気だ。アニメは子供が観るイメージがあったが、昨年は「君の名は。」や「この世界の片隅に」が大ヒットし話題となった。

2017 年は、日本初のアニメ（「なまくら刀」）がつくられてちょうど 100 年になる。初期の「白蛇伝」や「鉄腕アトム」、スポ根・ロボットアニメの登場、「宇宙戦艦ヤマト」でファンを青年層まで広げ、ジブリ作品が躍進し、SF 分野で世界的評価を受けるアニメ監督が登場するなどしてきた。

日本アニメは、海外でも、その映像の美しさに定評があり、また、深夜アニメも含めて多様な作品が次々と作りだされており、人気が高い。日本の文化をアニメから学んだという外国人も多くいる。

■アニメ舞台をまわる「聖地巡礼」の旅

最近注目すべきは、国内においてアニメで地域を活性化する動きがでてきていることだ。

（株）日本政策投資銀行が毎年行っている外国人向けアンケート調査で「日本旅行をしたいと考えたきっかけ」を尋ねたところ、「日本の



筆者撮影)

お土産菓子などのご当地グッズ（秩父地場産センター・売店）



筆者撮影

「君の名は。」のポスターで描かれている実際の風景
(東京都新宿区・須賀神社前の階段)

ファッション・ゲーム・アニメに関心がある」が10位に入った。今後、各地域で外国人旅行者の増加が期待される場所であるが、実は約10年前から、国内では「聖地巡礼」と呼ばれる、アニメの舞台となった地域をまわる旅(コンテンツツーリズム)が、密かなブームとして始まっていた。

全国の地域(聖地)を訪れるアニメファンは、作家・作品に共感し、作品の世界観を体験したい、キャラクターと同じ場所に立ちたいという思いを持ち、その場所を自分たちで見つけ出して訪れる、といった行動をとる。

「らき☆すた」の舞台となっている埼玉県久喜市や、同県秩父市(作品愛称名:「あの花」

「ここさけ」の舞台)では、地域側は、アニメファンが神社などに突然、大勢現れて驚いたとのことであったが、久喜市(旧鷲宮町)は、せっかく来てもらうのであれば喜んでもらおうと、商工会を中心に著作権を有するアニメの版元と協力して、ご当地アニメグッズを制作して地元商店街で販売するなどした。

ファンに支持される作品の存在があり、作品を愛するファンの存在があり、作品とファンを受け入れる地域の懐の深さがあり、版元の協力的な姿勢があり...それぞれの思いと協力によって、まちなかを回遊する人が増え、活気へとつながった。

■アニメファンが地域ファンへ

地域では、巡礼者に「どちらから?」の一声をかけられるかが、その地域が聖地として続いていくかどうかの第一歩であろう。もちろん、その際、アニメファンは、来訪者としてのマナーを守ることが重要である。

地元の方は、作品の概要を知っていれば充分で、詳しい必要はない。むしろ、詳細は巡礼者から教えてもらうくらいでよく、一方、巡礼者は、地域のことを地元の人から教わる。こうした相互でフラットな関係や定期的に訪れる機会、例えば、輿をかついだり、花火を打ち上げる祭りなどがあることで、人と人とのつながりが紡がれていく。そうして、アニメファンが地域ファンになり、地域を支える一員となっていくことが期待される。

Seki-shiN 石心 石田まさひろ政策研究会メールマガジン vol.010

このメールは送信専用メールアドレスから配信されています。ご意見は info@masahiro-ishida.jp までお寄せください。

【配信停止・設定変更】本メールサービスの解除を希望する方は、石田まさひろ政策研究会までご連絡ください。

【配信元】石田まさひろ政策研究会 〒100-0014 東京都千代田区永田町2-1-1

Copyright© Masahiro ISHIDA all Rights Reserved ---掲載記事の無断転載を禁じます---